

第2回菊池市総合計画策定審議会 議事録

I 概要

日 時 令和7年5月27日（火） 13:30～15:20

場 所 菊池市役所 本庁3階305大会議室

出席者 上野(眞)委員、古津委員、立花委員、永田委員、野口委員、松野委員
泉委員、岩下委員、出口(美)委員、田嶋委員、上野(智)委員、谷委員、鋤委員
北村委員、佐藤委員、赤星委員

欠席者 下川委員、出口(一)委員、錦戸委員、堀田委員、岩根委員

菊池市政策企画部 宇野木部長、稲葉室長、中山課長補佐、福原参事
地方経済総合研究所 津口、石川、黒木、大久保(文責)

※以下敬称略

II 会次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事 (1) 第3次菊池市総合計画後期基本計画骨子(案)の説明
(2) グループワーク

4 閉会

Ⅲ 議事詳細

発言者	内容
	1 開会
	2 会長挨拶
会長	今年 1 月 29 日以来の開催となる。米大統領交代後、毎日のようにトランプ大統領の発言について報道されている。大統領制は、一人の人間に行政の権限が集まるため腐敗も起きやすい体制となるが、アメリカでは過去 200 年この制度が上手くいっていた。日本が戦後、民主主義を学習するうえでの先生のような役割だった。しかし、最近のアメリカは権威主義国家に変貌してしまった。経済的な問題で日本も翻弄されているが、それ以上に、一人の人間に任せるとドラスティックに社会を変えられると信じる人々が、誤った人に力を与えてしまうということが世界のあちこちで起き始めている。 日本における地方自治も、首長を選ぶという意味では大統領制である。そこに議会があり、バランスをとっている。 菊池市においては、根本的な施策の在り方やベクトルを皆様の意見をベースに考え、市長のリーダーシップを持って成果につながるように動かしていく体制をとっている。アメリカのようにならないためにも、地方自治においては皆様の参画がとても重要である。 TSMC 進出もあり地元経済界は活気づいているが、他方で生活者の視点から見ると大きな危惧もある。こうした状況も踏まえて、これから 10 年後の在り方を考えていかなければならない。人口は増えるかもしれないが、高齢化、福祉や教育、様々な問題がある。生活に密着する皆様の実感を今日は存分に話し合ってもらいたい。総合計画は他の自治体と似たような筋立てになりがちだが、メリハリは重要である。皆様の手触り感のある言葉を伝えてもらいたい。
会長	前回「会議の公開、傍聴」及び「会議録の公開」については、承認いただいている。本日は傍聴希望がないため、そのまま議事を進める。また、会議録は、発言者の氏名非公表の要点筆記とする。事務局より説明をお願いしたい。
	3 議事（1）第 3 次菊池市総合計画後期基本計画骨子（案）の説明
事務局	骨子案は総合計画全体の構成を示したものである。最初に市長の

	あいさつ、第1章はじめに、第2章人口ビジョン、第3章基本構想、第4章基本計画の4つの章から成る。全体の流れは前期基本計画を踏襲するが、大きな変更点として、第2章に人口ビジョンを追加している。 (資料1に基づき説明)
会長	議事(1)について質問、意見等あれば、ご発言いただきたい。具体的施策の検討については、これから委員の皆様にごグループワークを行っていただく。事前に配布した市民アンケートやワークショップで得られた意見を参考にしながら、ご自身の専門分野の知見をもって意見を出していただきたい。 皆さんが望む「菊池市のありたい姿」に近づくために、「課題は何か」「その課題を解消するためにどんなことができるか」についてご意見を出してもらいたい。異なる意見を出し合いながら同じ方向に向かっていくことが理想である。進め方は、事務局より説明していただく。
	3 議事(2) グループワーク
事務局	今回のグループワークは、委員それぞれの専門分野で対話いただくことで、自分たちにできることを考え、より良い菊池市を実現するための取り組みを、一緒に考える場にしていただきたい。進め方については、地方経済総合研究所に説明をお願いします。
事務局(地方経済総合研究所)	(資料2に基づき説明)
産業と経済分野	グループワーク(1回目)
委員	企業誘致の取組強化、交通インフラ整備、観光振興ビジョンとの整合性などが課題。
委員	観光振興ビジョンに関しては、菊池温泉の活用について課題がある。菊池ブランドに関しては、農畜産物のブランディングに課題がある。菊池を旅の目的にする方法を考える必要がある。
委員	素晴らしい温泉があるが、活かされていない点は課題である。また、接客態度や電話対応が悪いのでガッカリして帰るという生の声を聞いたことがある。そこから変えていかないと、リピーター獲得に繋がらない。温泉の質は良いので、改善すればリピーターが来る。観

	光客に一度来てもらい、口コミが広がれば経済効果にもつながる。今ある課題を突き詰めていかないと解決にはつながらない。
委員	清潔感や料理といった部分でも良くない話を聞いたことがある。菊池といえば温泉であり経済の根幹である。
委員	接客や清潔感のコストをかけずに改善できるはず。
委員	交通インフラ整備についての課題は二次交通である。熊本空港から菊池市までのアクセスの改善。最も費用が掛からないのは、空港からライナーで肥後大津駅に行き、そこからバスを使用するルート。リムジンバスと電鉄バスで菊池市内に来ると2時間以上かかる。飛行機で東京から1時間半かけて、県内移動に2時間かかることになる。タクシーは早いが経済的ではない。ライナーがあれば、途中下車を含めても空港から40分程度で着く。
委員	来年度から実証実験があると聞いた。
委員	「空港から一番近い温泉地」というのを活かせていない。今はレンタカーで来る人への助成金があるが、それ以外の人の交通手段がない。
委員	空港からだけではなく、JRでも新幹線開通以降は新玉名駅から菊池に案内されるようになった。
委員	熊本空港から新玉名駅までつながると良い。その場合、山鹿市、玉名市、JRとの協力を要する。
委員	観光振興ビジョンとの整合性が取れているのか、といった点も考える必要がある。ビジョンの下に「菊池温泉街リブランディング基本構想」等様々な計画がぶら下がっている。
委員	観光も商業も農業も後継者がいないと産業が萎む。
委員	人手不足、人の流出が問題である。若い人をどのようにつなぎとめるか、あるいは菊池を出た人に戻ってきてもらうことが重要である。
委員	大学進学を機に出て行って、その後菊池に戻ってくる人もいるが、そのまま就職してしまう人も多い。通勤圏内に企業があれば、人口流出に歯止めをかけられる。
委員	そのためには儲かる仕組みが必要である。
委員	それは全ての分野につながる。儲かると知られていれば、農業も商業も後継者不足に悩まないのではないか。
産業と経済分野	グループワーク（2回目）
委員	温泉街の活性化が課題。市のリブランディングの委員もしている

	が、昨年２回ほど温泉街でお祭りがあり、好評だったと聞いている。一過性で終わらないようにするにはどうしたら良いか検討しているが難しい。菊池温泉の魅力をもっと伝えていくべき。菊池溪谷もあり、歴史の面もある。これまでと違った視点で何かできないか。
委員	既に良い温泉、良い自然がある。オリジナリティや新しい発想が必要。観光客は、他所に無いものを求めて来る。例えば、県内の他市町村では、外国人の方がワンピースの像を見に来る。菊池にも隠れキャラの像の様なスポットがあればそれを目的に観光客も来るのではないか。 石川県や埼玉県の例を参考に、福祉を通じて人を呼び込む戦略はどうだろうか。商店街にもべんりカーが周回しているので、子ども達や高齢者が気軽に集える場所を作ってはどうか。自分自身、剣道をしているため、剣道の体験ができる武道ツーリズムで外国人を呼び寄せるアイデアがある。他にも、空き家を利用して、若手の工芸家、芸術家を対象に安くアトリエを提供し、拠点とするなどはどうか。 他の自治体が実施していない施策で、戦略的に人を集めていきたい。温泉や自然に加えて、オリジナリティを発信していくと良いのではないか。
委員	PR が不足している。良いものがあるが知られていない。ふるさと納税で PR するだけでは限界がある。菊池に来訪する旅行者の多くが福岡からという背景がある。市長自らが、福岡市長に表敬訪問して菊池の魅力を伝える場があれば、テレビ等にも取り上げられて良い PR になるのではないか。
委員	SNS を活用して、若い人に PR していく。菊池は色んな場所があると知ってもらおう。それが、移住にもつながると良い。大型商業施設の誘致も大事である。地元の商店もあるため難しい点はある。商業施設も消費者としては良いが、地元商店街が潰れてはいけけないのでバランスが難しい。
委員	誘致に関してもターゲットを分けると良いかもしれない。大型商業施設は若い人向け、福祉のまちは地元商店街と住み分ける。そこで、宅配カーなどが近くまで届けてくれる。カテゴリー分けができると、困っている人に手が届くサービスができる。商業施設は地元商店から仕入れる仕組みなどがあれば良いのではないか。大型商業施設にアクセスできない層もいる。
産業と経済分野 代表者発表	産業と経済について課題を大きく３つにカテゴライズした。まず、人手、後継者不足を解決したいということ。解決策として、若い人た

	ちに菊池の良いところを知ってもらいたい、リピートしてもらいたい。前提として菊池市に住みたいと思ってもらう視点が必要である。取り組みとして、福岡県の人をターゲットに市長がトップセールスを実施してはどうか。大型商業施設も必要だと思うが、地元の商店街もあるため、ターゲットを分けて考える必要がある。お店までの移動手段がない人のために、移動販売車などで商品を売っていくことも必要ではないか。 2 つ目の課題は、観光戦略について。菊池市には、温泉、自然、歴史などがあるが、オリジナリティに欠けているという意見もあった。今は、外国人もたくさん菊池市を訪れている。菊池市には、県内各地にあるワンピースの銅像はないが、例えば、マイナーキャラの銅像を設置することで、それらを巡る観光も生まれるのではないかな。私は剣道をしているので、武道ツーリズムというアイデアも提案した。他に、温泉地近くの空き家を活用して、若手の芸術家を誘致するなど良いと思う。アトリエ兼居住地とすることで、そこから将来有名になる芸術家もいるかもしれない。 3 つ目は、ブランド化。おいしい食べ物を既に菊池基準といったものでブランド化をされていると思うが、それらを SNS などでもっと広めていく戦略があるとよい。
子育てと健康福祉分野 グループワーク（1 回目）	
委員	他の市町村と比べて糖尿病、高血圧の人が多。学校の食育、検診率を上げるなどできないか。市全体の健康を上げていきたい。
委員	学校が統合されてスクールバス通学になり、子どもの肥満の傾向が出てきている。体を動かす機会が減っている。
委員	共働き世帯が増えて、手作りの食事が減った。自分で作る機会もない。
委員	子どもの体力が落ちている。部活動が総合スポーツクラブに移行した。その結果、始まる時間が遅くなり、送迎や部費の問題などを理由に参加を諦めるケースもある。スポーツから離れ、結果的に家でゲームをする子どもが増えている。
委員	学童保育にはたくさん子どもが来ている。菊之池小、菊池北小も人数は変わらない。しかし、留守番できる年齢になると、家でゲーム

	をするようになる。
委員	そうした習慣が成人病にもつながる。
委員	大人側も子どもの遊びに対して寛容でない。
委員	学校を開放してもらえないかという声もあるが、制約も多い。
委員	学童保育も夏休みなどの期間はスペースが足りない。児童館の利用数も減っている。大きなコミュニティを作ろうとはならない。
委員	高校生の自立に向けての準備が必要。子どものうちに自炊する機会を設けることが大事。
委員	18 歳でクレジットカードが作れるようになった。お金を使っている感覚が無いまま使っている。契約も 18 歳でできるようになったことで借金や不利な契約をしてしまったという話もある。
委員	子ども食堂で地域の高齢者に食事を作ってもらったりしている。子どもたちも会話を求めている。それぞれの役割、居場所がある。
委員	家庭環境には学校がタッチできない部分もあるが、地域の人が気づいてくれることもある。そこから支援のきっかけになるとよい。
委員	子どもたちが自分の居場所に来て、日ごろの対話から何の支援が必要かを考える。外国人の子どももいる。何が足りていないのかに気付いてあげたい。
委員	地域の中での関係性や距離感も大切にしたい。近過ぎず、離れ過ぎずのゆるやかな関係が理想。
委員	課題解決につながるまでの、アンテナが必要。居場所があって、課題発見の一手手前のような仕組みがあると良い。
委員	相談できる専門的な機関も必要。
子育てと健康福祉分野 グループワーク（2 回目）	
委員	子どもの遊ぶ場所はないわけではないが、親子で遊ぶところはない。家でゲームか、学童保育の利用が多い。
委員	子どもが自分のやりたいことをできていたら良いと思う。
委員	同世代の子どもたちと遊べる方がよい。親の就労で学童保育に来ているのだと思うが、遊び場になっている。学童保育の数も不足していると思う。
委員	病児、病後児保育もなかなか広まらない。
委員	これらを解決するのは難しい。解決策は診療体制の話になる。菊

	池市だけでなく、二次医療圏などの話になる。菊池の人でも合志市の病院を利用できるような広域の体制があるとよい。
委員	解決策はどれだけ予算があるかという話であり、どの課題に優先的に予算を投下するかという話になる。
委員	他自治体の事例では、ふるさと納税の活用がある。たくさん寄付が集まる自治体では、子育て支援にいくら使うというのを打ち出している。
委員	子どもの給食も財源。物価高騰で量や質が落ちているのではないか。
委員	医療や介護のサービスを不必要に利用し過ぎているという面もある。自分で何とかするという努力も限られた財源の中では求められる視点なのではないか。
子育てと健康福祉分野 代表者発表	子育てと健康福祉について話し合った。子どもの食生活の乱れ、遊ぶ場所や運動する機会の減少など、子どもが抱える課題を中心に意見が集まった。その他、子どものお金の使い方についても課題がある。トータルして考えると、子どもが本来の生きる力を身につける機会が減ってきている。これらの課題に対して、学校、家庭だけでなく、安心して過ごせる第3の居場所が必要であり、その居場所で問題に気付いてあげること、地域の人に関わっていくことが大切である。そのような居場所は、子どもだけでなく、みんなの居場所にもなり得る。さらに、そういった居場所があるということを周知することも重要である。 最終的には財源も必要となるため、その点に関してふるさと納税を使って財源を確保していくという案が出された。
自然環境と暮らし分野 グループワーク（1回目）	
委員	遊休農地、竹林、耕作放棄地の問題がある。
委員	栗農家も事業継承ができていない。
委員	暮らしの基盤につながる話だと思う。作物を植えられない。
委員	農薬、消毒薬を使い過ぎて、生態系が壊れるのではないかと心配している。
委員	核家族化が進行している。自治会の加入率も低下している。ごみの問題、美化作業などができていない。コミュニティは大事である。

委員	大規模開発については、届出されていると受けざるを得ない。
委員	産業と環境のバランスを考えないといけない。
委員	太陽光発電の設置も何らかの対応が必要だと思う。
委員	圃場整備をした大きな農地は法人が使うが、中山間地で整備していない農地は放棄地になりやすい。
委員	山鹿では耕作放棄地を集約して、若者が集まって農業をしていると聞いた。
委員	鳥獣害駆除の問題については、開発も鳥獣害の状況をみながら進めていく必要があると思う。
委員	農地保全については、TSMC 進出で転用が進んでいる。関連企業の転用が進んでいる。
委員	ゾーニングをしているはずだが、それを守れているか。ルールがあるならば守ってもらう。
委員	自治会加入の課題は声掛けの問題なのではないか。会社から従業員に声をかけてもらうなど。
自然環境と暮らし分野 グループワーク（2回目）	
委員	防災防犯関連で、アプリ、防災無線などが既にあるが、放送が聞こえないなど必要な情報が届かない人がある。
委員	自治会の加入と同じであるが、子ども会の加入も減っている。人とのつながりを求める一方で、近過ぎるコミュニティは避けられている。昔からあるコミュニティへの参加を拒む一方で、別の新しくできたコミュニティには加入するなど。
委員	鳥獣駆除が行き届いていない。駆除できる人がいなくなっている。動物の被害は深刻。
委員	耕作放棄地があるという情報が伝わってこない。持ち主が分からない。農地バンクのようなものがあるが、活用されていない。
委員	空き家の問題も同じだと思う。相続した人も相続したことを把握していない等の課題がある。持ち主の特定が必要。
委員	工業用地へ転用が進んでいる課題について。自然環境を守るのか、産業を増やすのかというのは、本当に悩ましい。農業をしている人の立場では、残してほしいと思うかもしれないが、農業していない人にとっては、産業を発展させるなら今しかないと感じるだろう。中山間地域では、やはり子育てするのには向いてない。
委員	先の話になるが、今後、人びとの生活がコンパクトになっていく。

	山間地に一軒だけ家があるという状況は、テレビ番組で見ると面白いが、実際にその為のインフラを維持し続けることを考えると課題である。
委員	東北地方では震災をきっかけにまちごと移転した事例がある。学校や施設、インフラを丸ごと移転してコンパクトにした。つまり、大震災のような大きなインパクトが無いとコンパクト化が難しいということ。
委員	免許証を返納すると言っても、山間地では現実的ではない。そもそもバスの乗り方を知らない人もいる。まず、お試し乗車のような策が必要ではないか。丁寧に市民の声を拾っていく必要があると思う。
委員	外国人に関する課題も大事だと思う。菊池は日本人が減って、外国人が増えている。ルールや線引きは整えていく、お互いが過ごしやすくなるための交流なども必要。
自然環境と暮らし分野 代表者発表	自然環境と暮らしの基盤について話し合った。1回目のグループワークでは、乱開発、景観の保全、事業継承、農地の保全、治安、自治会の未加入者の増加など広範囲な課題を出した。 2回目のグループワークでは、外国人増加によって、お互いに安心して暮らせる環境ができていない点や、鳥獣害被害や耕作放棄地の所有者が分からなくなっているなどの意見が出た。また、防災情報について、防災無線が届いていない人もいるのではないかと指摘もあった。そういった人たちに対して、周りの気遣いが必要である。 解決方法として、規制や条例を作って自然を守っていくことが必要ではないか。農業者減少については、中山間地が課題である。TSMC進出によって転用されている農地もあるため、用途別にある程度線引きをしていくことも考える必要がある。住む場所をコンパクトにしていくことも検討しないといけないが、愛着のある土地を離れたくない人もいると思う。この点は課題として残る。 市民が求めているサービスと提供サービスが本当に一致しているのか。「べんりカー」などもあるが、普段バスに乗らない人が、免許証を返納してもバスの乗り方が分からない高齢者もいる。どんなことに關しても丁寧に情報を伝えていくことが大事である。また、最も大事なことは、この策定審議会に傍聴者がいつもいないということ。市民が自分事として考えているのか、声を出してはいるが、本当に届けるべきところに届けきれていないのではないか。

教育と文化分野 グループワーク（１回目）	
委員	保育園や小中学校の教育者不足が深刻化している。全国的な傾向があり、特に地元での就職や進学の実選択肢が限られていることが原因。
委員	若者が地元の学校の魅力を再発見し、進学・就職に繋げることが重要だと思う。
委員	歴史や文化の学びが、地域への愛着や地元に対する理解を深める可能性があるが、現状ではまだ十分に強化されていない。
委員	教育者不足の解決には、柔軟な働き方を取り入れることや、休暇制度の導入を検討してはどうか。
委員	地域の歴史や文化を学ぶプログラムを拡充してはどうか。例えば、菊池の神社や歴史的な名所を活用した教育活動を推進するなど。
委員	今出ているようなことを、菊池市全体の取り組みとして広げることで、教育や生活環境の魅力を向上させる。
委員	PR 活動を強化し、菊池市の教育や自然環境の魅力を国内外に発信する。
教育と文化分野 グループワーク（２回目）	
委員	地域コミュニティの希薄化が見られる。
委員	高校の在り方を考えるべきだと思う。私立高校の無償化によって菊池市内の高校から熊本市内などへ進学者が流れていく。
委員	菊池農業高校は特徴のある学校である。もっと PR をして学生を呼び込むべき。
委員	地元の小中学生へ菊池市内にある高校が何をやっているのかをもっと知らせたい。
委員	U・I・J ターンにより都会で学んだ優秀な学生を地元へ呼び込むことはできないか。
委員	文教の里菊池にこだわらず、高森高校の漫画学科のような専門的な教育環境を整えるなど特色を出す。特色ある教育（多様化）により、若者（学生）がみな主役になれるステージを設ける。
委員	リーダー人材の育成により地域で若者を育てる体制の構築が必要。地域の中心に高校があるべき。
委員	都市部の学生を中心に外国人留学生も含め呼び込んでいく。

委員	域学連携を増やすこと、また広げていくこと。地域と連携した取り組みの強化（花いっぱい運動や田植え事業など）。
教育と文化分野 代表者発表者	教育と文化というテーマで話し合った。様々な視点から意見が出た。小中学校までは菊池市にいても、高校から市外に出てしまうという話が多かった。特色を持つ学校があるにもかかわらず、その PR ができていない。また、小中学校の教員不足も課題である。今後、私立の無償化が始まれば、私立高校に進学する人が増えるのではないかな。まずは地元で愛着を持ってもらいたい。 そのために歴史や文化を現場で教えていく。特色のある授業に変えていくことで市外からの逆留学ができるのではないかな。菊池市ならではの魅力に特化した教育を実現していく。愛着を持って菊池市で学んでくれば、将来 U ターンで働いてくれる可能性もある。子どもたちが育っていく中で、自分が必要とされているという気持ちを持てる教育を実現していくことがすべての解決につながる。
会長（総括）	委員の気づきを忌憚なく出し合う良い話し合いだった。個人が抱える生き辛さは社会的、政治的な問題である。暮らしの場面においても、自分が我慢していることを語ってみると、他の人も困っていることがある。そういった気づきをいかに可視化していくか。このような機会を通して、取り組みやすい施策につながるのではないかな。サイレントマジョリティの声は、皆さんの声を通じてでしか察知できない。行政にできることは、補助金、規制緩和、あるいは規制することなどに限定される。それ以外は、住民が自助・共助していく、あるいは企業や行政と一緒にしていくしかない。 総合計画の中に課題はたくさんあると思うが、住民が取り組むこと、行政が取り組むことなど仕分けができるとよい。本日の審議会では、構想の骨子が示された。子育てや耕作放棄地など複合的な問題に対応するためには、行政を縦割りではなく横連携する必要がある。現実には難しいこともあるが、本日そのヒントがもらえたと思う。 今日は3つの分野の話があった。ヒト・モノ・カネ、そしてインフラ、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）が大切である。人と人との関係性の良さも資本と言える。地理的な条件は変えることはでき

	ないが、そういう視点では菊池市は恵まれた地域であると思う。 3つの重要なことを申し上げる。一つ目は、この地域に住み続けるためにはどうするかということ。皆さんがここで生きていくための環境を作っていく必要がある。移動する自由、働く自由、買い物をする自由などはこれまで受益者負担でやってきたが、人が暮らしていく上で大切なことである。従来の受益者負担のままいけば、街中にしか人は住めなくなる。 二つ目は、次世代を育てるのは地域であるということ。大人と子どもが触れ合う機会をどうするのか。祭り、行事、イベントに目を向けて考えていかなければならない。全てを学校に任せることは難しい。保護者も子どもと過ごす時間は確保しにくくなっていると思うが、問題意識は既にあるため、実践される状況を作っていくことが重要である。 三つ目は、個別意思と一般意思は異なるということ。時に感情、扇動的なことに振り回されることもあるが、社会全体のことを考える時は、個別意思を一度社会全体のことに落として考える必要がある。みなさんの意思が菊池市の意思になれば良いと思う。 今回のワークショップを通じて、それぞれの委員の人となりを感じられたと思うので、今後も想いを深めてもらいたい。総合計画の政策に手触りのあるものを残したい。市長の4期目のマニフェストを拝見して、共に創る子どもの未来と掲げられていた。21世紀半ばに向けて、我々が考えないといけないことは、次世代にどう繋いでいくかということと改めて感じた。今後の議論のなかにもぜひこの視点を入れていただきたい。
会長	以上ですすべての議事が終了した。その他事務局より連絡事項はないか。
事務局	次回は7/29（火）もしくは7/30（水）13：30～を予定している。内容は委員の皆様に変更して連絡する。
	4 閉会
事務局	これをもって閉会とする。